

読書の窓

～8月に読みたい本～

夏の暑さもピークを迎える8月。
怖～い本を読んで、少しでも涼しく
過ごしてみたいかでしょうか…？



『旧怪談 耳袋より』

京極夏彦／著

江戸時代、根岸鎮衛という旗本が、友人知人から伝え聞いた様々な話をつれづれに書きとめた『耳袋』という書物があります。その中に収録されている怪談と呼べる話を集めて書き改められた本です。思わずぞっとするような短編が、原文と一緒に多数収められています。



『日本の幽霊事件』

小池壮彦／著

実在する土地で実際に起こった奇妙で恐ろしい幽霊事件を取っかかりに、埋もれてしまっていた事実を迫り、人の隠れた営みに思いを馳せます。



『図解 日本の妖怪』

岩井宏実／監修

浮世絵や絵巻、面の写真などが満載で、日本の妖怪を美術作品としても鑑賞できる一冊です。妖怪たちの見せる表情は、よく見るとなんだかユニーク。滑稽な逸話も多く、人間の創造力と想像力の面白さを味わえます。怖い話はちょっと苦手…。という方にもおすすめです。



『東京ミステリースポット』

白峰社／発行

この世への断ち切れぬ想いと、それを迎え鎮める人々の数々のドラマ。あなたは、身近に潜むこの恐怖を知らない。行くか、戻るか…、決めるのはあなた自身。ミステリー好きの方にお勧めのガイドブックです。

やよい図書館では特色コーナーで詩を紹介しています。下記の本も借りることができます。

- ・「詩集 海拔八百米」 小野幸子／著 小野プロデュース
- ・「のはらうたIV」 工藤直子／著 童話屋
- ・「海の少女」 高橋順子／詩 牧野鈴子／絵 新書館
- ・「むしいっぱい」 まどみちお／著 長新太／絵 理論社
- ・「海があるということは」 水内喜久雄／選・著 理論社
- ・「若山牧水歌集」 若山喜志子／選 岩波書店



◀ 海や自然に関する詩を読んでみませんか？ ▶